

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 5 区分

【発行日】平成30年2月1日(2018.2.1)

【公開番号】特開2016-132833(P2016-132833A)

【公開日】平成28年7月25日(2016.7.25)

【年通号数】公開・登録公報2016-044

【出願番号】特願2015-6678(P2015-6678)

【国際特許分類】

D 0 2 G 3/26 (2006.01)

D 0 2 G 3/02 (2006.01)

D 0 2 G 3/44 (2006.01)

D 0 4 B 1/16 (2006.01)

D 0 3 D 15/00 (2006.01)

D 0 3 D 15/12 (2006.01)

A 4 1 D 19/015 (2006.01)

A 4 1 D 19/00 (2006.01)

【F I】

D 0 2 G 3/26

D 0 2 G 3/02

D 0 2 G 3/44

D 0 4 B 1/16

D 0 3 D 15/00 A

D 0 3 D 15/00 C

D 0 3 D 15/12 Z

A 4 1 D 13/10

A 4 1 D 19/00 A

A 4 1 D 19/015 1 1 0 Z

【手続補正書】

【提出日】平成29年12月14日(2017.12.14)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 2 2

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 2 2】

第 2 に、所定の撚り（撚数 T_1 ）を加えた紡績糸単糸を 2 本引き揃え、ダブルツイスターで所定の逆撚り（撚数 T_2 ）を加えて、紡績糸に加工する。このとき、紡績糸の単糸撚数（ T_1 ）に対する双糸撚数（ T_2 ）の比率（ T_2 / T_1 ）が 48～63%、より好ましくは 50～63% の範囲になるように加撚する必要がある。

本発明の紡績糸では、単糸撚数を通常より大きい値に設定することにより、紡績糸表面の毛羽や繊維端を抑えることで高剛性アラミド繊維によるちくちく感を減少させている。従って、前記比率（ T_2 / T_1 ）を 48% より小さくすることは、双糸の残留トルクによって編み立てした織編物や手袋によじれが生じ、編地が斜行することで、手袋の装着性や作業性が低下するので好ましくない。反対に、前記比率（ T_2 / T_1 ）を 63% より大きくすると、残留トルクをなくす工程で過度の加撚を強いられることで、均一な紡績糸が得られにくくなり、そのため、紡績糸を織編物や手袋等の繊維構造物にしたときに、切創力が局所的に低い部位が発生する恐れがあり、耐切創性向上という本来の目的が阻害されることになる。双糸撚数（ T_2 ）は 3～13 回／インチが好ましく、より好ましくは 4～1

2 回／インチである。